

令和7年度病虫害発生予報第8号

長崎県病虫害防除所長

向こう1か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病虫害名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	うどんこ病	やや少	やや少
	褐斑病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	やや多	やや多
トマト	黄化葉巻病	並	並
	コナジラミ類	並	並
いちご	うどんこ病	並	並
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	やや少	やや少
	ハスモンヨトウ	やや少	やや少
	アザミウマ類	並	並
ブロッコリー	黒腐病	やや少	やや少
	べと病	並	並
	コナガ	やや少	やや少
	ヨトウムシ類	並	並
	オオタバコガ	やや少	並
	アオムシ	やや少	やや少
レタス	灰色かび病	並	並
	菌核病	やや少	やや少
	アブラムシ類	並	並
	オオタバコガ	並	やや多
かんきつ	ミカンハダニ	やや多	やや多

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

きゅうり

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（5筆）の結果、発病葉率は0.1%（1.6%）、発生圃場率は20.0%（33.8%）であった。

2. 褐斑病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（5筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病葉率0.0%、発生圃場率1.4%）。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（5筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率0.2%、

発生圃場率 5.0%)。

4. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(5筆)の結果、寄生葉率は10.0%(6.2%)、発生圃場率は100%(65.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス(CCYV：ウリ類退緑黄化ウイルス)を媒介するので、防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和7年長崎県病害虫防除基準P149～150の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(7筆)の結果、発病株率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は14.3%(6.4%)であった。

2. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(7筆)の結果、寄生葉率は2.4%(2.2%)、発生圃場率は42.9%(51.1%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

イ 本虫は黄化葉巻病や黄化病ウイルスを媒介するので低密度でも防除を徹底する。

ウ 本虫は葉裏に多く寄生しているので薬剤のかけむらがないよう丁寧に散布する。

エ 施設内の雑草は、本虫の増殖源となるので除草を徹底する。

オ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和7年長崎県病害虫防除基準P165～166の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤の連用を避ける。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(26筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(26筆)の結果、寄生株率は2.5%(1.5%)、発生圃場率は30.8%(24.1%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。

イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は2.6%（5.4%）、発生圃場率は34.6%（33.6%）であった。

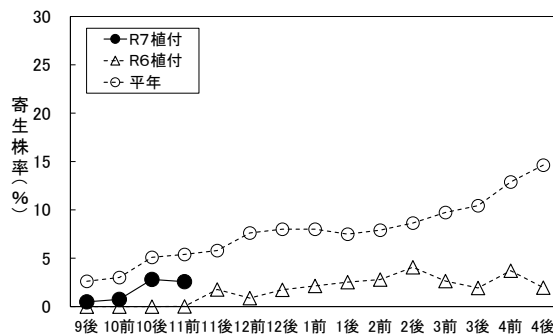


図 いちご ハダニ類 寄生株率

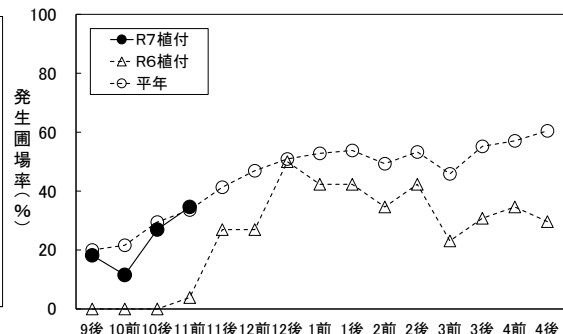


図 いちご ハダニ類 発生圃場率

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布前には古葉の整理を行い、薬剤が葉裏までかかるようにする。また、摘葉した古葉は、速やかに圃場外に持ち出し適切に処分する。

イ 今後、天敵を導入する圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を用いて防除を行い、ハダニの密度を極力低減した上で放飼する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準P182～183の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

4. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 11月前期の巡回調査（26筆）の結果、食害株率は1.1%（2.0%）、発生圃場率は30.8%（31.2%）、幼虫の寄生株率は0.2%（0.4%）であった。

イ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺数は、11月1半旬以降平年並で推移している（図 ブロッコリーの項参照）。

5. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（25筆）の結果、寄生花率は0.3%（過去9か年平均0.5%）、発生圃場率は16.0%（同 20.8%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなってからの防除は困難であるので、早期発見、早期防除に努める。

イ 本虫は、薬液が到達しにくい蕾や花、がく等に寄生しているため、薬剤散布は丁寧に行い薬液がかかるようにする。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和7年長崎県病害虫防除基準P182～183の「作用機構による分類（IRAC）」参照）を連用しない。

エ 薬剤の選定に当たっては、ミツバチへの影響に注意する。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率2.0%、発生圃場率11.5%）。

2. べと病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

3. コナガ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.4%(5.6%)、発生圃場率は50.0%(43.5%)であった。

4. ヨトウムシ類 (ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 11月前期の巡回調査(12筆)の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は1.3%(0.4%)、発生圃場率は41.7%(9.4%)であった。

シロイチモジヨトウの寄生株率は0.5%(過去9年平均 0.9%)、発生圃場率は16.7%(同 19.1%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺数は、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウともに11月1半月以降、平年並で推移している(図)。

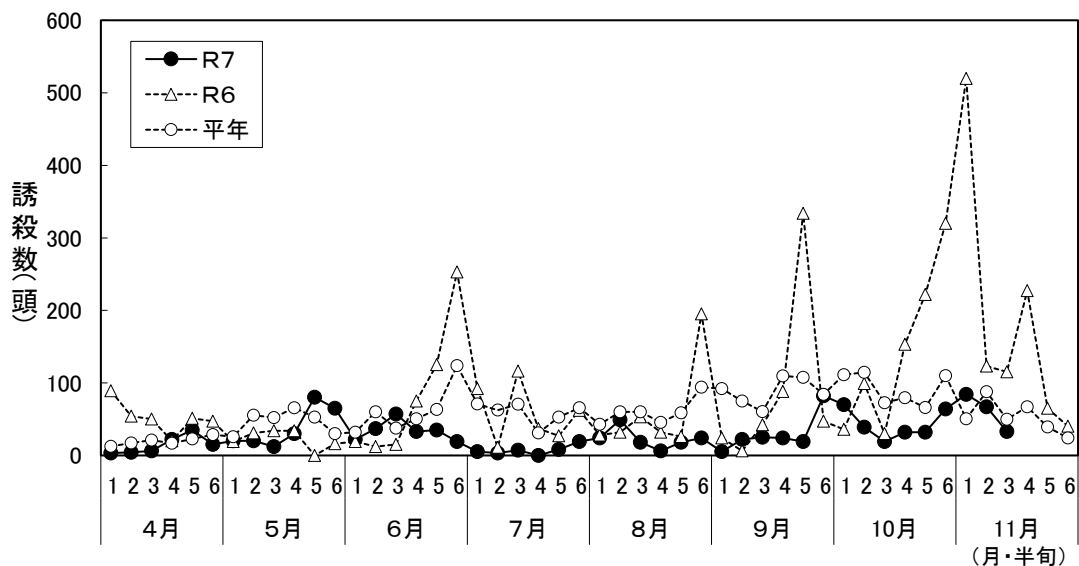


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)

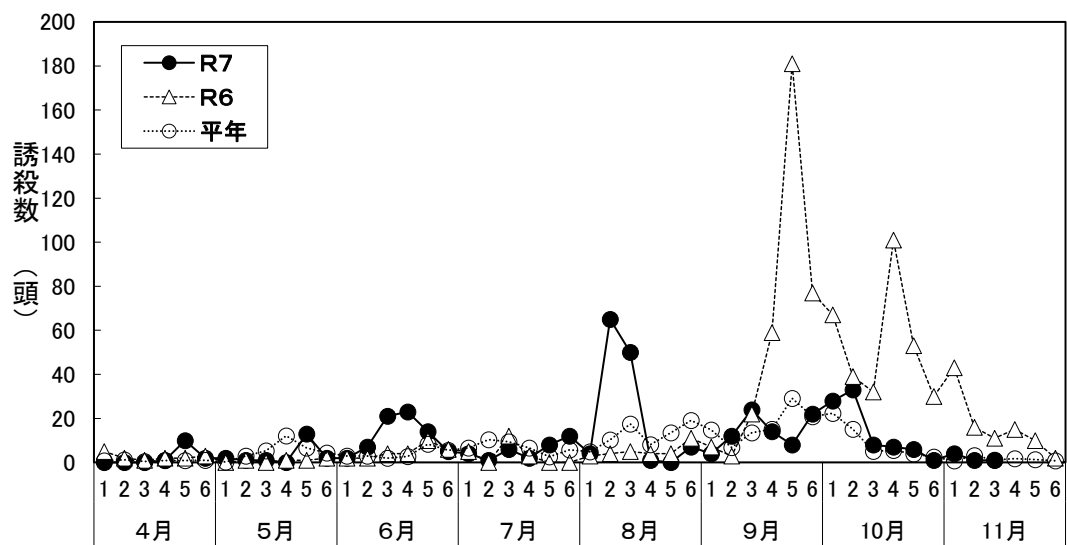


図 シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況 (月・半旬)
(諫早市小船越町)

5. オオタバコガ

(1) 予報内容：発生程度 並

ア 11月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率0.3%、発生圃場率10.4%）。

イ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺数は11月1半旬に増加し、その後減少したが平年よりやや多く推移している（図）。

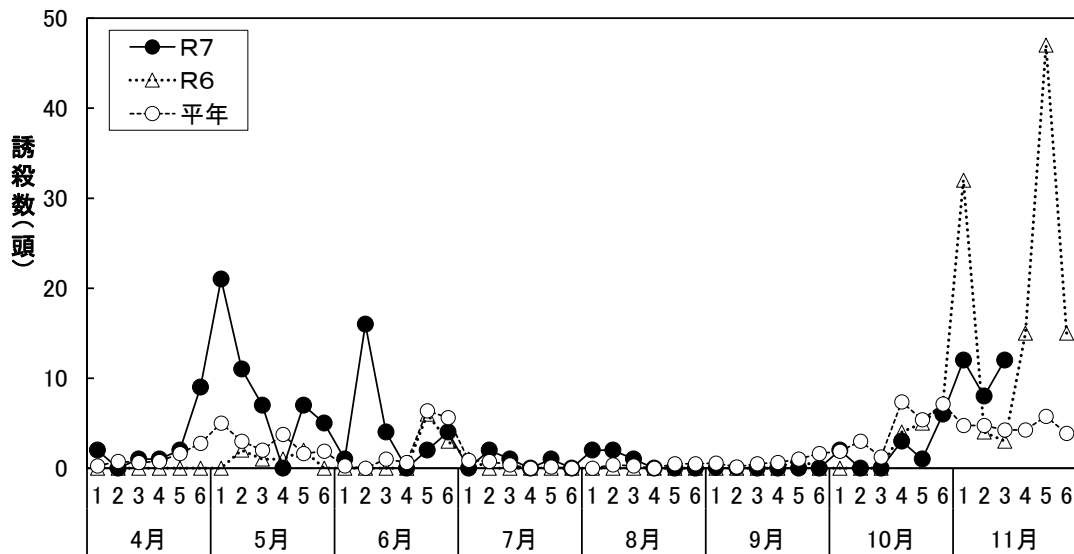


図 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況（諫早市小船越町）（月・半旬）

6. アオムシ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率0.0%、発生圃場率4.2%）。

レタス

1. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

2. 菌核病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率4.7%）。

3. アブラムシ類

(1) 予報の内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（9筆）の結果、寄生株率は0.1%（0.3%）、発生圃場率は11.1%（7.0%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

気温の低下につれて球内部の葉への寄生が増えるので、薬剤防除にあたってはできるだけ結球前の防除を徹底する。

4. オオタバコガ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 11月前期の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
 - イ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺数は11月1半旬に増加し、その後減少した
が平年よりやや多く推移している（図 ブロッコリーの項参照）。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 本虫は結球内部に食入すると防除が困難になるため、結球前の防除を徹底する。
 - イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統薬剤（令和7年長崎県病虫害防除基準の
P202～203「作用機構による分類（IRAC）」参照）を連用しない。

かんきつ

1. ミカンハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - 11月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は10.6%（4.3%）、発生
圃場率は42.9%（37.5%）で、圃場間差が大きかった。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 越冬虫のマシン油乳剤による防除は、収穫後の12月（遅くとも1月上旬まで）に、
晴天が続く日（少なくとも2、3日程度）を目安に行う。
 - イ 樹勢が低下している樹では落葉が助長されることがあるので、そのような園や12
月に防除ができなかった園では、厳寒期を過ぎた3月に散布する。
 - ウ マシン油乳剤は、名称が異なる剤が複数あるので、各製品の使用基準をよく確認す
る。

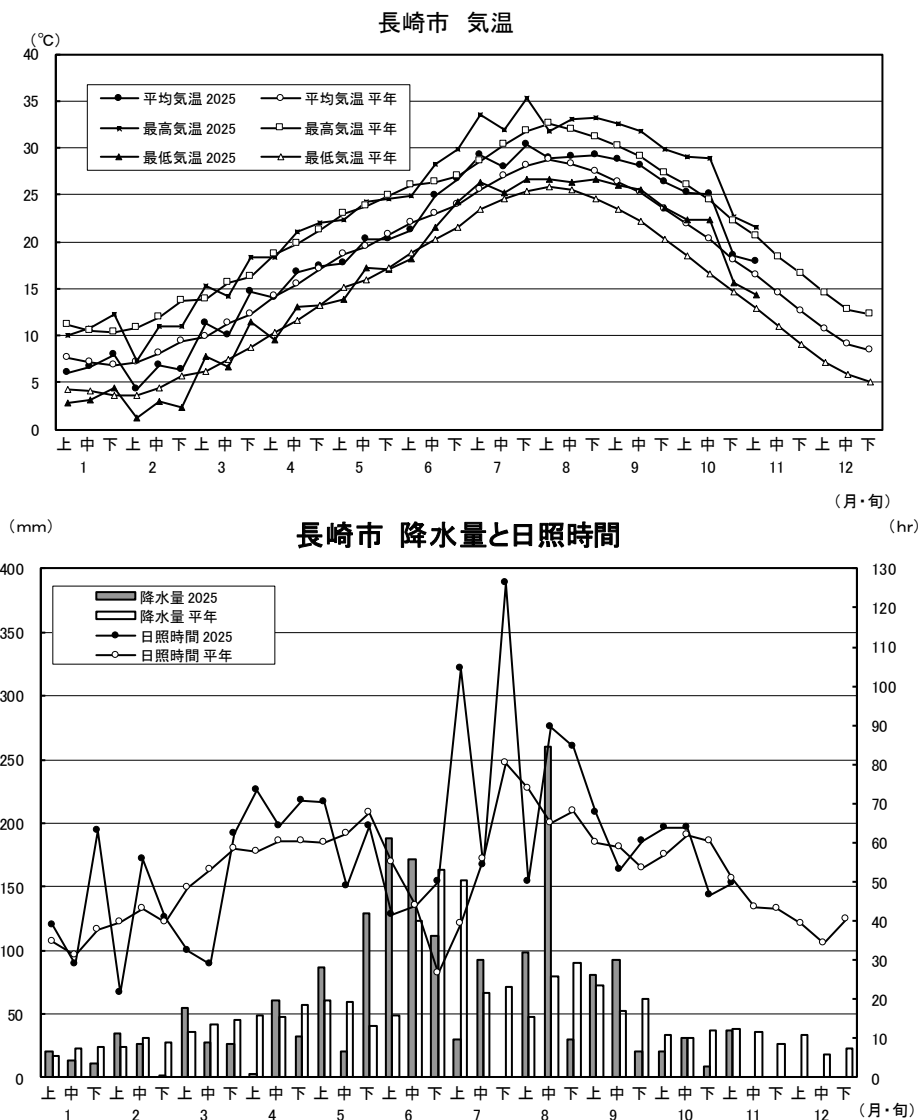
【参考】

(令和7年11月13日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	60	30	10
日照時間	10	30	60

※予報対象地域：九州北部地域

令和7年の気象経過(長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

